

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500097		
法人名	医療法人社団千寿会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所みずばしょう		
所在地	北海道登別市登別東町4丁目48番地1		
自己評価作成日	平成24年11月19日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年3月に登別市の東部に位置する住宅街に認知症グループホームに併設し開設しました。近くには事業所名でもある「みずばしょう」の群生地があります。

経営主体が三愛病院であり、医療面でのサポートも整っており、安心に繋がっているのではないのでしょうか。

市内で唯一の事業所ですが、登録の約7割が近隣の方です。開設間もなく、事業所を利用した事がきっかけで、10数年ぶりに事業所で再開し涙を流しながらお互い懐かしんだ。

といった事例もあり、人や社会との繋がりを常に実感でき利用者同士、そして家族、スタッフと共に支え合い、共に生きていくことができる事業所を目指しています。利用者の生活の中に「みずばしょう」があるのだと考え、一人ひとりの生活をさりげなく支えています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 24 年 12 月 14 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR登別駅から徒歩15分程の閑静な住宅地に立地し、近隣には商店や郵便局などがあり、特にみずばしょうの群生地という緑に恵まれた環境にあります。当事業所は登別市において最初の小規模多機能型居宅介護施設として平成24年3月に開設しました。利用者が在宅生活を継続するために、住み馴れた地域の中で馴染みの人や社会との関係を保ち、自分らしく暮らすための支援を目指しています。通いにおける急な泊り、早朝からの通所、通いの延長、夕食後の帰宅などと併せ、訪問支援における通院の送迎、買い物、地域交流、独居高齢者の見守り、服薬管理など細やかな支援を馴染みの職員が継続して関わり、プランにとわられず柔軟に対応しています。通いの中で利用者が職員に調理を教えたり味付け、食事の片付けなど生活の中で役割を發揮する場面を作り、助け合う気持ちや生きがいに繋げるなど家庭的に過ごされています。施設長は事業所全体のスキルアップとして職員教育に力を入れ、実践の中で振り返ったり確認するなどして、気付いたその場で習得出来るように取り組んでいます。地域の中で高齢者の拠点として期待されている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をネームプレートに携帯している。また、ミーティングなどでケアの方向性などを確認するようにしている。	4項目の理念を職員のネームプレートに記載し、実践に努めています。4項目には地域の中で小規模多機能型として目指すサービスのあり方を具体化しています。職員は常に立ち戻る原点として、理念をケアに活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りや、地域の行事に参加している。また、町内会のカラオケクラブに参加している利用者もいる。古紙回収なども各町内会に協力して頂けるようにアプローチしている。	利用者の多くが近隣の住民であり、町内会のお祭りやカラオケクラブに出かける際の支援もあり、交流を深めています。事業所の夏祭りには近隣住宅を訪問し、参加を呼びかけています。利用者は浴衣姿で盆踊りなどを楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	SOSネットワークの構築に向けた取り組みに事業所としても協力している。社協主催のきずな推進事業にも参加し地域事業に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	併設のグループホームと協働開催している。会議の中で事業所の取り組みや利用者のことなど話し合い、町内会長、民生委員を中心に地域の方の協力も得ながらサービス提供を行っている。	運営推進会議は事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、出席メンバーからの意見等はサービス向上に活かしています。独居高齢者の安否確認の一つとして回覧版の手渡し等が提案され、相互の連携を再確認しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出は必ず持参するようにし担当職員と顔を合わせる機会をつくっている。また、施設長(管理者)は審査会委員でもあり市役所に出向く機会も定期的にある。	行政には小規模多機能型事業所としての役割やサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くようにしています。市主催の徘徊高齢者の搜索模擬訓練から警察などと新たなネットワーク作りをしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外へ出たいときには、出掛けられるような対応を行っている。マニュアルを整備し、定期的に勉強会等の開催を実施したい。	玄関は日中施錠はしていませんが、利用者の出入りは事務所から見守る事が出来ます。利用者が外出する場合には職員が同行して拘束のない暮らしを支援しています。また、施設長はケアの進むべき方向性をDVDに収め、職員教育に利用しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会の開催を実施したい。利用者の身体の変化や言動、表情などから気づき、見過ごさないように注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では日常生活自立支援事業等の該当者はいないが、制度理解に努める必要があるため、研修会への参加、勉強会の開催等を企画していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設長（管理者）、計画作成担当者から十分な説明がされている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	送迎時やご家族との連絡ノートを活用し意見や要望を頂いている。ご家族から頂いた要望などは直ぐに計画作成担当者に申し送られ対応している。運営推進会議の場でも意見、要望を頂いている。まだ、開設してから広報誌の発行が出来ていないので、早急に発行したい。	利用者・家族の意見や要望は送迎時や連絡帳を活用して確認するなど細やかに情報の収集をしています。要望や質問には帰りまでに回答できるように取り組み、連絡帳等の記載には大きな字で解り易く返信するようにしています。今後は事業所便りの発行を計画し、職員間で検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少しの時間でも毎日ミーティングを開催し、スタッフの疑問や提案が出せる機会を設けるようにしている。まだ、実施はないが施設長との個人面談も定期的に行う機会がある。	職員からの疑問や質問、提案などには毎日のミーティングの中で話し合わせ解決しています。職員の提案により脱衣室の暖房設備が整い、浴室の簡易手すりが設置されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を採用し、スタッフ個々人が自分の目標設定を行い達成に向け取り組んでいる。また、資格取得に向けた勉強会の開催を法人がバックアップしている。資格取得後に待遇が改善させた、スタッフもおり目標となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で行われる研修会、勉強会の情報をスタッフに伝え、参加できるようにしている。今後は事業所内でもスタッフの段階に応じたOJTの体制を整えて、指導を実施したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長（管理者）が市内の同業者や他職種との勉強会に計画作成担当者を同行させ交流の機会を設けている。今後はスタッフにも同様の機会を広げたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	依頼があった場合、自宅訪問を行い利用者、家族の意向や困っていることを聴きとり、安心してサービスが利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様の対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域性も考慮しサービス利用にあたっては、常に地域にある他のサービスも頭に入れ、その時の状況に応じた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしていることが、感じられるような雰囲気づくりをしている。時に利用者から教えて頂いたり、励まされたりしながら、利用者の想い、不安、喜び、怒りを知り、共に支え合うことができる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を連絡ノートや送迎時に家族に伝えるようにしている。家族からも家での様子などが聞かれている。定期的な訪問で家族の「想い」を聴くよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの人との繋がり、付き合いが途切れないように、ケアプランに取り入れ、家族と一緒に支援している。	通いの場で知人との再会に感動する場面もありました。通いには友人同士を同じ曜日に合わせるなどの支援をしています。また、地域のお祭りや盆踊りなど、これまで習慣的に参加してきた行事にも積極的に参加して、利用者の楽しみに繋がっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく過ごせるよう、スタッフが間に入ったり、見守りを行っている。利用者同士の関係性も常に話し合い情報を共有し、場面をつくっている。その日の状態や気分で時々変化することもあるので、注意して見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設入居により登録が終了した方には会いに行く機会をつくったり、来てもらったりしている。いつでも、相談できるように関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々関わり、言葉表情などから利用者の思いや意向をさりげなく確認し支援に繋げている。センター方式を活用にアセスメントしている。	利用者のこれまでの生活歴や趣味、できる事、得意な事などをセンター方式の活用で本人らしい生活ができるよう意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何気ない会話から、以前の暮らし方等を聞きセンター方式を活用している。家族からも同様に聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフと一緒に何かを行うことでできることを引き出すように努めている。今持っている力を把握しながら、発揮できるように支援するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族からの聞き取りを行い、柔軟かつ臨機応変な対応ができるような計画を心がけている。利用者とのコミュニケーションの中からアセスメントを実施している。	あらかじめ予測される利用者や家族のニーズや当日発生したニーズにより柔軟にサービスを組み合わせ機能していく事を目指して、プランを作成しています。時間にとらわれない、集団の制限を受けない等、個別の状況に寄り添ってアセスメント、モニタリングも行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつでも全てのスタッフが確認できるようになっている。業務開始前に記録の確認を行い、利用者の様子をスタッフ間で共有していきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況や要望に応じて、臨機応変に対応している。予定日以外の通い、泊り、訪問についても柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所内で完結させるのではなく、必要に応じた地域資源の活用ができるように、情報の把握に努めたい。また、ボランティア等の資源活用も積極的に行っていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診ができていないか確認をしている。受診時の対応も必要時には同行し、状態など相談を行い、かかりつけ医との関係を築けるように努めている。	在宅での受診支援は家族が対応していますが必要に応じ職員が通院介助を行い、情報を本人と家族で共有しています。通所では職員が送迎の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化があれば看護師へ報告し早期対応に努め、場合によっては受診に繋げるなど行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の様子を確認したり、想いを聴くようにしている。担当医や病院スタッフと連携を図り、退院後の対応を検討している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての指針はまだない。今後、重度化した場合、終末期について、理解し対応できる体制づくりを行っていきたい。	開設して以来重度化や終末期の経験はありませんが本人や家族の意向や要望を話し合い、小規模多機能型としての在宅での重度化や看取りについて研鑽を重ねています。医療も含めて方向性を模索しながら指針作りを検討中です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修などに参加しているが、全スタッフまでではないため、事業所内での実施が必要と考えている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、通報訓練を実施し避難誘導の方法など確認している。また、災害時の避難については法人内の規程で応援体制ができており、近隣事業所スタッフが駆けつけることになっている。	災害訓練は消防署員の協力を得ながら夜間も想定して訓練を実地しています。法人の応援体制が整って隣接ホームのスタッフも駆けつけてきます。近隣住民には文書で戸別に説明し、訓練の協力を呼びかけましたが参加までには至っていません。	開設してわずか9ヵ月です。今後は地域との信頼関係の中で理解や協力が得られると思われれます。根気強く発信していく事に期待します。また、今回の長期停電の経験を地域や家族に伝授され、今後の備えに活かして頂きたいと思えます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように常に注意している。	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねないように支援しています。排泄用品の収納場所、トイレ誘導、入浴時の羞恥心などにも気遣いが見られます。また、難聴者には臨機応変に対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が思いや希望を出しやすいように配慮している。意思表示が難しい方でも、自己決定できるように、本人の思いや希望を読み取り、理解しやすいように対応するよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課やプログラムを作成せず、一人ひとりの過ごし方や希望に合わせた1日を過ごせるよう、スタッフの業務負担も決めず、いつでも柔軟な対応ができるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れや汚れ等に対しブライドを大切に声かけ、対応を行っているが、まだ配慮が足りないと感じる時もある。本人の拘っているスタイルなど把握し、その人らしさを保てるように心がけている。新しい服を着てきたり、ヘアスタイルが変わった時に			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑から収穫した野菜を利用者が調理し食事の時にしたりしている。それぞれのできることを把握しながら、盛り付けなど自ら手を出せる環境を心がけている。※流しゾーメンを実施したり時に楽しみながら食事ができるような工夫もしている。	男性職員に利用者が調理を教えたり、片付けや食器洗いなどに参加する場面を作り、工夫をして楽しみに繋げ職員と一緒にゆったり食事を頂いています。器や盛り付け、彩りに職員の気配りが見られます。夏には育てた野菜を調理し話題にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量、排せつが一目でわかるようになってきている。個々の好みやパターンなどを理解し対応するように努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施している。特に支援が必要な方はスタッフの介助にて行っている。口腔ケアの必要性についても理解を深めていきたい。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表を活用し、パターンを把握し個々に合わせた支援を行っている。オムツを使用しているも、出来るだけトイレでの排せつに繋がるように支援している。	排泄は在宅での排泄状況を把握しながら尿意のない方についても時間であったりサインや仕草、行動をキャッチして、トイレでの排泄に繋がるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品などの提供、マッサージや運動など便秘対策に取り組んでいるが、看護師に頼っているところがあるので、スタッフ全員で取り組んでいきたい。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望や好み合わせ入浴できるように工夫している。1日の日課やスタッフの業務負担がないので、希望や要望に沿った対応ができています。	浴室は事業所の両サイドに2ヵ所あり、手摺の設置状況などによって片麻痺の方も安心して利用できます。仲良し同士や誘い合って入浴される方、長湯を好む方それぞれの利用者が安心して安全に楽しめるよう支援しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情などから観察し、ベッドで休める時間もつくっている。泊りの時にも不眠があったりしても、話しを聞いたり、そばにいたり不安を与えないように関わっている。寝ることも、起きていることも強制しないように努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容がわかるようにファイルしている。服薬時は個々の状態に合わせた支援と確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家ではできない事でも、本人のできそうなこと、楽しいと思えることを把握し支援していきたい。自ら、自然に力を発揮できる環境を整えたい。与える役割ではなく、力が発揮でき、頼りにされていることが実感できる支援を心がけていきたい。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添ってドライブなど出かけている。特に決めていなくても外出はできる。	外出は利用者の身体状況や気分、天候や反応を見ながら個別に支援しています。秋には洞爺湖温泉でバイキングを楽しむなど5名の利用者が参加されました。買い物やドライブの他に事業所の盆踊りには利用者も浴衣を着て参加し、嬉しそうでした。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たないことで不安になったりすることがあることを十分に理解し支援できるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたがり、手紙を書いたり、今は希望がないのでしていないが、希望があればすぐに対応できる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでゆっくり過ごせるよう、利用者に合わせてTVやソファの位置、座る場所を検討している。音（特にキッチン音）に配慮が足りないと思う時がある。	玄関横には事務室が解放されていて、出入りの見守りができます。入口には観葉植物が置かれ、共用スペースには大きなツリーと壁にはリースの飾り付けで、全体的にシンプルで落ち着いた雰囲気です。利用者がソファに横になったり、食卓テーブルで職員と会話するなどして自由に寛いでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が座れるようにしたり、時にはTVとソファの位置を変えてのんびりくつろげるように工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の寝室とベッドの向きを合わせたり、トイレ近くの部屋にしたり、その人に合わせている。日常使い慣れた物を持ち込んでも良いことを伝えており、実際に持ち込まれている方もいる。	泊りの部屋は9室あります。テレビ台、テレビ、ベッド、カーテンが事業所から用意され、利用者が日用品や衣類を鞆や紙袋に納め、身近に置いて安心して生活されています。白い壁にカレンダーや壁掛けなどがあると、より家庭的な雰囲気に近づくと感じられます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自立した生活が継続できるための支援を行っている。			